

第1回 北秋田市保育園等の在り方検討委員会

1. 委嘱状交付
2. 市長あいさつ

みなさん、どうも今日のご苦勞様でした。特に平日の日中ということで、仕事を持たれている方もこうやってお集まりいただきまして、大変心から感謝を申し上げます。

ただ今皆さまに委嘱状を交付させていただきましたけれども、北秋田市保育園等の在り方検討委員会に、皆さまにお引き受けいただきまして、心から深く感謝申し上げます次第でございます。

日頃、当市の福祉行政全般に当たりまして、大変皆さまから温かいご尽力とご協力をいただいておりますことに、この場をお借りして心から感謝を申し上げる次第であります。

みなさんご覧のとおり、少子高齢化が進んでおりまして、そういう中でも、核家族化が年々増加を示しております。このような問題を早急に対応することが必要だということで、北秋田市も考えているところであります。なかでも、少子化に対しましては、この北秋田市、子どもの医療福祉に関しましては、全県でもトップレベルを誇っているところではありますけれども、そういう道の中でまた市独自の子育て支援を順次に取り組んでいるところではあります。昨今増加しております子育ての共稼ぎ世帯の方々に対しましても、そういう方々が保育を必要とするお子さんをしっかりとサポートすることによって、お父さんやお母さんが安心して仕事をできる、そしてまた生活ができる子育て環境を作っていく、これがそういうまちづくりに繋がっていくものと思いますし、ひいてはそういう方々がこの地域に、北秋田市に定住していただけるようなサークルにつながってくるものと思っております。

今日お集まりいただきました北秋田市保育園等の在り方検討委員会では、こうした保育に対する環境整備、特に保育所をはじめとする子育て環境も適切な整備に取り組むことを目的として、この検討委員会を設置致しています。この検討委員会は市役所職員で構成致します保育園等整備プロジェクトチームと合わせて保育の現状や課題などの情報を共有する中で、各種検討や作業を進めていくものですが、この検討の後に市が保育園等整備5カ年計画を策定して、順次、事業の展開をして参りたいと考えているところであります。子ども達の健康や安全を確保しつつ、発達過程に配慮した保育に努められる保育園等の仕組みを構築し、質の高い保育サービスの提供と各地域の保育体制の整備を進めることが、この検討委員会の趣旨となっております。

皆さまには、保護者の方もいらっしゃいますし、それぞれのお立場から貴重なご意見をいただきながら、保育体制の充実について活発に検討を重ねていただきたいと思いますので、どうかご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。どうかよろしく願いいたします。

3. 委員の紹介

4. プロジェクトチームの紹介

5. 委員長・副委員長選任

事務局	委員長の選任ですが、どのような形で選任いたしましょうか。
委員	(事務局に一任します)
三上委員	行政にも携わられ、現在は社会福祉法人の経営に携わっております秋田県民生協会の佐藤理事長にお願いしたいと考えておりますが、ご賛同お願いいたします。それから、副委員長については、委員長の方から推薦いただくという形で選ばせていただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。
委員	異議なし
事務局	異議なしという声が上がりましたので、佐藤修助様に委員長に就任していただきたいと思います。委員長席の方にお移り願います。 委員長から、あいさつをお願いいたします。
委員長	ただいまご紹介をいただきました秋田県民生協会の理事長をしております佐藤でございます。ただいまは、北秋田市保育園等の在り方検討委員会の委員長にご推挙いただきました。あまり拍手がなかったもので・・・
委員	《拍手》
委員長	先ほど市長が申し上げましたように、子どもさんが大変少なくなってきたという中で、国の方でも税と社会保障の一体改革という大きな問題が提供されております。税の方は、決着をみたようでありますけれども、社会保障の方が子育てを含めた大きな課題となっておりますので、そういう面から私たち北秋田市もいろいろな課題が見えてきている状況の中で、市がこういう会議を催してくださるということで、時宜を得たことだと思っております。 11人の委員の皆さんそれぞれ経営に携わっている方々、子育てに専念なさって保護者会の会長さんとして頑張っておられる方々、園長をなさっている方々、みんなその道の専門家だと理解をいたしております。その他に行政のプロジェクトの皆さん、それぞれバックアップをしていただけていると思っておりますので、長丁場になると思われそうですが、慎重にあるべき姿を追求しながら、どういう成果が出るか分かりませんが、みなさんのご意見をお聞きしながら、市長に対して委員会の報告をしたいと思っておりますので、ご協力をお願いしたいと思います。
事務局	委員長から、副委員長の指名をお願いいたします。
委員長	それでは、北秋田市立保育園等の在り方検討委員会設置要綱の第4条の2項でございますけれども、委員長は先ほど推挙いただきました。この中には互選とありますが、委員から話が合ったように委員長から指名をして

	くださいということです、副委員長には、県北報公会の理事長の神成昭弘さんをお願いをしたいと思います。
委員	《拍手》異議なし
委員長	議事に入る前に 6 の開催日程（案）の説明をお願いします。

6. 開催日程（案）の提案・・・事務局

委員長	日程については、6 回ほど予定をされていて、テーマについても記載の通りでございますが、話を進めていくうえで、いろいろな問題が出てくるであろうと思いますので、必ずしもこれに沿った話ではなく、おおよそこのようなテーマに沿って結論的には取りまとめをしていかなければいけないと思いますので、この予定について、こういうテーマで進めてよいかみなさんにご意見をお聞きしたいと思います。せっかく 11 人が集まって検討委員会を設けたわけでありますので、できるだけ平等に発言の機会を設けたいと思います。ですので、できるだけご意見を伺いたいと思います。
委員長	だいたい、こういうテーマでよろしいでしょうか。話を進めていく上で、追加があれば追加していくという方向でよろしいでしょうか。
委員	はい
委員長	もう一つは、日にちが特定されております。各月 1 回ほど予定しておりますが、特別なことがない限り、この日程で進めて参りたいと思いますが、みなさんよろしいでしょうか。
委員	はい
出川委員	日程のことについて、内容的に考えれば、課題になるのは「民営化」「指定管理」という方向が短時間で提言にあげられる状況まで運べるかということかなり難しい感じがしますが、どういう風に考えての日程なのでしょう。事務局から説明がないと、話が何となく表面的なものになりやすいのではないかと思いますので、説明をお願いいたします。
三上委員	各回のテーマにつきましては、深く議論していただきたいということで、1 回のことでなくて 6 回の中で最終的にはどうするかということを詰めていきたいと思っております。1 回だけで詰めるということではありませんので、ご理解をよろしくお願いいたします。
出川委員	はい、わかりました。
委員長	行ったり来たりすれば、なかなか話がまとまらないという問題もありますけれども、出川さんが言われたような最終的なところまでいった場合、結論を得るかどうかは、委員会として、全体の進め方を見て取りまとめをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それから、日程の時間的には、勤めている方もたくさんおりますので、保護者会の皆さんの具合もあるかと思いますが、どうでしょうか。

出川委員	<p>テーマの説明は大体分かりましたけれども、中身を考えてみると膨大な量ですが、果たして1日に1時間半という時間で消化できるかどうか。大変な問題があるような気がいたします。運営の仕方について、かなり絞った形で進めていかないと、表面的な提言ができて中身が伴っていくのかどうか、プロジェクトチームもおりますので、そこで検討されてきちっとした形になっていくものと思いますが、我々の委員会でもどこまで提言が提言として機能するものか非常に心配な面があります。</p> <p>まず、心配な面をお話ししました。</p>
委員長	<p>割り切るところは割り切って進めていければと思っておりますが、今私が申し上げていることは「日程」でありまして、大体この日程で進めていきたいと思っておりますので、あとは「時間」は午前か午後か決めていただきたいと思います。先ほど（日程説明の時、事務局から）申し上げましたように、どうしても出られなかったら必ず代理の方を出していただきたい。</p> <p>神成さん、午前がいいですか、午後がいいですか。</p>
神成委員	<p>どちらでもいいです。やはり保護者会の方々が休みの取れる時間帯もあるかと思しますので、合わせられればと思います。</p>
委員長	<p>保護者会の方々どうですか。</p>
佐々木委員	<p>私は午後の時間帯の方が時間も取りやすいので、午後がいいです。</p>
金澤委員	<p>私も勤めておりますので、午前中は会社の会議などありますから、午後の方が比較的時間が取りやすいので午後がいいかと思えます。</p>
委員長	<p>それでは、「午後」ということで進めてよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>異議なし</p>
委員長	<p>この日程で午後1時半から進めていきたいと思えます。</p>
神成委員	<p>場所はここよろしいでしょうか。</p>
委員長	<p>場所はここだそうです。</p>
委員長	<p>もう一つ、今日はマスコミの皆さんがお入りになっています。ここは原則的に「公開」、「全て公開」ということにいたしたいと思えますけれども、どうでしょうか。</p>
神成委員	<p>非公開にする必要が何もないと思えます。</p>
委員長	<p>ただ、進める中で「〇〇さん」という固有名詞が出た場合、個人情報という問題もありますので伏せていただく場合もある。そしてこれは議事録にも記載されるということでもありますので、ご了解をいただきたいと思います。よろしいですか。</p>
委員	<p>《うなずく。》</p>
委員長	<p>それでは、原則的に「公開」ということで、個人情報絡む場合は、別</p>

	の表現に差し替えて進めて参りたいと思います。それでは、7 の議事に入りたいと思います。
金澤委員	1 回ごとの会議の時間の目安ですが、60 分とか 90 分とかあるかと思いますが、どのくらいの時間を考えておりますか。
事務局	今日の会議も 15:00~16:30 と 1 時間半を設けておりますが、大体同じような時間を考えております。
委員長	よろしいですか。
金澤委員	はい。ありがとうございます。
委員長	なるべく短めに内容の濃いものに、1 時間半くらいを目途に進めて参りたいと思います。

7. 議事

1) 北秋田市の保育園等の現状と課題について

事務局	<p>資料の「保育園と子育て環境の現状と課題」の説明</p> <p>北秋田市の現状と課題として 4 つが考えられますが、今回は 1 と 2 について主に説明を申し上げたいと思います。</p> <p>資料 1の説明</p> <p>0 歳児～5 歳児までの計の数字を見ていただくと、H22,23,24 とだんだんと減少していることが分かります。H22 から比べると 65 名の減となっております。</p> <p>資料 2の説明</p> <p>子どもの数が減少すると、＜公立保育園の現状＞の中にも「定員割れの保育園がほとんど（鷹巣中央保育園以外）」とありますし、＜私立保育園の現状＞の中にあるように入園児を確保できるかという経営上の問題があげられると思います。</p> <p>子どもの数が減少し、保育園に入る児童の人数も減ってきているという現状の中、課題の 2 にあるように、なぜ、「年度途中で待機児童が発生している」という問題が生じるのか理由を考えました。資料 2の「平成 24 年度の年齢別入所率」をご覧ください。年齢別の児童数に対して保育所に入所している人数と入所率を表した表になっておりますが、0 歳児の左の年度当初 4 月 1 日現在と右の 10 月現在の表を比べていただくと、児童数並びに入所児童数とも増えていることがお分かりいただけます。この表と実際の入所申込書を受け付けた時を基に考えたところ、共稼ぎの方々が、出産後、お子さんを保育園に預けて育児休暇を縮めてなるべく早く仕事に復帰したいと考えている家庭が増えているように思います。</p>
事務局	<p>資料 4の説明</p> <p>4 月 1 日現在入所児童数と 10 月現在入所児童数を比較していただくと、</p>

	<p>あいかわ保育園を除く全ての保育園の入所児童数が増えていることがお分かりになります。</p> <p>ここに載せておりませんが、平成 21 年度の 10 月現在の入所児童数は全体で 921 名でした。0 歳児の入所人数は 77 名でした。今年度 87 名ということで 10 名ほど増えている状況となっております。ただ、この表の数値を見ると公立保育園の中では定数を満たしていない保育園もありますが、なぜ待機児童が発生してくるのかという説明をさせていただきます。</p> <p>この表の半分から下の欄が、年齢別保育士配置数となっております、保育士 1 名に対し年齢ごとに見られる児童の数が決められており、※の部分がその割合となっております。</p> <p>一例として鷹巣中央保育園を取り上げますが、0 歳児 10 名に対して保育士 3 名となっております。保育士が満たない場合は、フリー・補助で補っております。</p> <p>入所児童数の網掛けの部分は平成 24 年 10 月 19 日現在入所児童数に対して保育士の数が満たしており、預けられない（待機となる）クラスを示しております。</p> <p>鷹巣中央保育園は 0 歳の人数を見ると、保育士と補助と 4 人に対し 12 人まで受け入れられますが、保育室の面積が 0, 1 歳児合わせて 28 人までという規定がありこれ以上受け入れられない状況となっております。2 歳も保育士 3 名に対し 18 人の児童でこれ以上受け入れられなくなっております。</p> <p>単純な話では、保育士さんがいれば受け入れ可能になるのですが、1 ページの現状と課題の中にもありますが、公立保育園も私立保育園も保育士を募集しても、なかなか応募がないという現状であります。</p> <p>6 月にも応募をしたところ、保育補助の方々は応募がありますが、保育士の資格のある方々がなかなか応募してこない状況です。この原因を探っていくことも課題であると思います。</p> <p>こういう状況で、保育園に入りたくても入れない児童がおります。表の真ん中の「10 月現在入所待ち児童数」をご覧ください。この数値は保育園に入れ不了というお子さんだけではなくて、この資料を 10 月 19 日現在作成した時点で、入所決定はしていませんけれども 11 月以降に保育園に入れると分かったお子さんの 6 名も含んでおりますので、保育園に入所できないお子さんは 15 名いるということになります。</p> <p>生まれて首が座ってきた頃の 2, 3 ヶ月頃から保育園に預けられるのですが、この 15 名のうちの大半をそういったお子さんが占めていることがこの表からお分かりいただけるかと思います。</p>
--	---

	<p>ここまで 1 と 2 の説明になります。今回の議題には挙げておりませんが、3 と 4 の部分についても資料を提供させていただきました。</p> <p>7 ページ以降は、平成 21 年 7 月に実施したアンケートになります。保育園に入所しているお子さんの保護者の意見を自由に述べてもらったものの抜粋です。最初の「課題」に関連するようなものが載っております。(●の部分)</p> <p>本日の資料、1 ページの会議次第の、＜その他、子育てに関する不満・要望＞は、このアンケートの自由意見を抜粋したものになります。</p> <p>後でご覧いただき、何かご意見がございましたら、今後の委員会の中でお聞かせ願いたいと思います。事務局からの説明は以上でございます。</p>
委員長	<p>現状と課題の中で子どもの数が減少しているということは残念なことではありますけれども、毎年のように生まれる子どもの数が減少しているのが現状であり、それとは反して待機児童が発生している現状であります。</p> <p>これからいろいろ議論が出されるかと思いますが、やはり一番の問題は子どもの数が減少していることから様々な問題が生じてくると私は解しておりますが、今説明を受けた中から委員の皆さんの感想やご意見があれば伺いたいと思います。</p>
近藤委員	このアンケートは全部の保育園から取ったのでしょうか。
事務局	次世代育成支援対策地域行動計画の中で、保育園児に限らずお子さんを持つ保護者の方を対象に行ったアンケートの中から保育に関する部分を抜粋した形です。
丹波委員 (代：小塚)	今、質問の回答にありましたが、保育園に入っていないお子さんのいる家庭も対象にアンケートを取ったと解釈してよろしいでしょうか。このアンケートの標題の部分に「保育園児保護者の自由意見」と書いてあるので、保育園に入っていないお子さんのいる家庭の意見は入っていないのかなあと思いましたが。
事務局	タイトルに保育園児保護者と書いておりますが、保育園に入っていないお子さんの家庭も含まれています。
丹波委員 (代：小塚)	質問した趣旨の中で、認定こども園しゃろーむには幼稚園機能もあるので在宅で保育が可能な家庭のお子さんも入れる部分がありますし、その他にもご家庭でお子さんを見られているお母さん方がたくさんおりますので、そういう世帯の方々のご意見も載せていただければよかったのかなあと思いました。
事務局	分かりました。
近藤委員	資料は、今後も当日お渡しするのでしょうか。ここで見ながらやるということは大変時間がかかると思います。

事務局	今後は事前配布させていただきます。
近藤委員	わかりました。
事務局	今日お渡しした資料についても、毎回お持ちいただきますようお願いいたします。全ての資料をお持ちいただいた上で、最終的に提言に結び付けていきたいと思っております。
委員	了解いたしました。
委員長	<p>正直な話、本日資料を渡されて、全部に目を通していくのはこの会議の中で難しいかと思しますので、今、事務局から説明があったように事前にお渡ししていただき、皆さんにも勉強をしていただき、会議に臨みたいと思っております。</p> <p>資料は基本的な基礎になりますけれども、あまり資料だけ見つめておりますと大局を失う場合がありますので、こういう状況だと把握した上で、皆さんのご意見をお伺いしていければと思います。</p>
事務局	先ほどのアンケートの件ですが、調査対象として就学前児童ということで調査を行っております、保育園に入園している、していない、の区別はしていますので、どちらの保護者の意見も入っているかと思えます。
委員長	ちょっと私から質問があります。6 ページにたかのす幼稚園園児の推移と書いてありますが、北秋田市には幼稚園が1つあるということで挙げられていると思いますが、大きい目で見れば児童には変わらないと思います。これはどういう意味で載せたのでしょうか。
事務局	今日、担当部所（教育委員会総務課）から会議に出席できないと連絡を受けております。事務局では説明いたしません、就学前の児童に変わりありませんし、この委員会は保育園だけに限らず、話を進めていきたいと思っております。
委員長	ここに「保育園等の」在り方検討委員会と書かれておりますが、等というのは幼稚園も含めた、また保育園、幼稚園などに入っていない方々も含めた在り方委員会だと勝手に解釈をしておりますが、どうでしょうか。もちろん、事務局の所属と教育委員会の所属と違うかもしれませんが。
三上委員	この会は、市の子育てをどうするかを議論していただく場所でございますから、市役所内部の組織としては教育委員会等となっておりますけれども資料の案件にもありますとおり現在の幼稚園等は何かと理解した上で、議論していただければと思っております。
丹 波 委 員 (代：小塚)	国の政策でも「総合こども園」という方向性があるようですが、市の方でもそういう問題も今後、保育園の検討委員会の中に取り込んでいく考えなのではないでしょうか。

三上委員	<p>先般、全県の保育園・幼稚園の担当者を対象に国から子育て支援新システムの説明があったところです。その中でも議論になったところですが、方向性が定まっていない状況です。方向性が示されるのを待っておりますと、こちらの方が遅れますので、ここの委員会としては、それ以上に先に進み、新システムの方向性が決まりましたら、こちらの方でも盛り込んで話し合いを進めて参りたいと思っております。</p> <p>保育園、幼稚園に関わらず市の子ども達をしっかりと支援するという方向でご協力いただきたいと思っております。</p>
丹波委員（代理：小塚）	<p>先ほど待機児童のところで、保育さんがいないという話がありましたが、やはり公立保育園の現状を見ると、いくら保育士さんを募集しても応募がない点は、雇用が不安定、賃金が低いことが一番ネックと思うのですが、そこだけが改善されていかないとなかなか保育行政も進まないと思いますが、市の方ではどのように考えているか教えてください。</p>
三上委員	<p>保育の質を確保するという点については、保育士さんが一番関わっているものですから、15 ページの日程（案）にありますように、第 3 回目のテーマのところで、そういった議論をしていただければと考えております。</p>
神成委員	<p>保育園にはそれぞれ定数があるわけですが、年度当初の 4 月に定数は何とか確保しようということと、定数に応じた保育士を確保することに努めるわけですが、年度途中から入ってきた場合、0, 1 歳児が特に職員が足りなくて受入れできなくなるというのは、先ほど説明したとおりであります。もう一つは、建物を建てる段階で、保育室の園児に対応した規模が制限されているわけであります。余分に大きく建てておけば余裕が出てくる訳ですが、建築するとなれば課題があるわけで、国で定める最小限度の基準に若干の余裕を持つては建築しており、極端に余裕を付けた部屋を設けるということはほとんどしていないのが現状であります。</p> <p>保育士の応募も出てこないということも現状ですし、なかなか大変なところです。</p> <p>短大の話を見ると、地元から短大（保育士養成課程）に入る人が、指折り数えるくらいしかいないというのが現状という話もありますし、実習に来たとしても、北秋田市以外の職員が実習に来ているわけで、採用するとなると給料の面でも莫大にかかりますし、本人にしてみればアパートを借りなければいけない現状から、なかなか地元の職員がいないわけです。保護者に見れば地元の学校の側の保育園なり幼稚園に入れたいと考えているようです。</p> <p>いずれにせよ、現状は、保育士の採用というのは、並大抵ならない努力が必要です。4 月 1 日に定数以上の職員を募集していればいいのですが、</p>

	<p>募集して採用になったとしても、いざ園児が入所したら、逆に園児が少なくなったりしたら、無駄な経費の支出の負担を負わなければならないのが現状であります。</p> <p>これからさらにいろいろな意見が出てくるでしょうが、こういう点を考えて皆さんも議論していただければと思っております。</p>
委員長	私も勉強不足でありますけれども、保育士さんというのはどういう学校を出ればなれるのでしょうか。
神成委員	短大の福祉科あるいは幼児科などを卒業しないと保育士、幼稚園の1種免許は取得できなくなる、さもないと県一般公募の保母資格の試験を受けて取る。この場合は、1科目だけでなく全科目を合格しない限りは保母としての資格がもらえないので、そう容易なことではないのが現状であります。学校に入らなくてもなることはできるわけですけども。
委員長	保母さんは国家資格ですか。
神成委員	いいえ、県です。
委員長	保育補助やサポーターの方々は。
神成委員	頼む側が採用して、保育士の補助員として働いていただくわけです。
委員長	今の話を聞けば、児童の減少と保育士さんがなかなかいないということはわかりました。そういうところが今日の課題でありまして、これが基本になってこれから進めていくということになるかと思えます。そう簡単に子どもの数が増えるわけでもない問題ですが、保育士さんの問題は、いろいろと努力次第で可能かなあとと思いますが・・・。
神成委員	福祉施設であれば、高校卒業して2年間福祉業務に従事した場合は、通信教育などで資格が取れるけれども、保育士であれば、通信教育というわけにはいかず、自らの実力ということになるわけです。
委員長	私達もいろいろな大学に行って職員募集をして来る訳ですけども、この地域から保育士でもそういう資格を取れる学校に行っている人が何人いるか。と調べてもなかなか正確な答えが返ってこないです。
神成委員	各保育園では、実習生は地元から来ていますか。
下山委員	<p>地元から来ています。今年も1名、昨年も1名。昨年の実習したその1名の方が平成24年の4月から鷹巣中央保育園の非常勤として勤めていただいております。今年実習に来られた方も、鷹巣が地元なので、地元に戻ってきて勤めたいと話しておりました。せいぜい1、2名ではありますけれども、職場があれば、地元に戻ってきて勤めたいという方がいらっしゃると思いますが、自分の家があって、親が正職でなくても側にいてほしいということであれば、正職でなくても残っていらっしゃる方もおりますが、「給料がね」というお話がやっぱり出ます。同じ仕事をしていく上でもう</p>

	少し待遇がいいと、もっと応募があるのではないかなと思います。
委員長	今の話を聞くと、対象はそれ相当あるけれども、待遇が悪いとか環境の整備ができていないということですか。
出川委員	<p>それはあります。地元北秋田市の生徒が短大等に北海道、東北地区に勉強に行っております。そういう生徒たちがほとんど地元の保育所に実習に来ています。うちの方も2名ほど戻ってきて実習しているわけですが、今おっしゃるように、保育士が足りないというのは、待遇の面あるいは雇用が非常に不安定な状況であるから、地元に残りたい、他所に行きたくないのですが、ここにいても保育士にはなれないと、他所に出ていくわけです。</p> <p>したがって、保育士を募集しても出てこないのが現状だというふうに認識しております。綴子保育園だけでなく、ほとんどの保育園がそうだと思います。だから、保育士が不足だというのはそういうバックがあるからです。</p>
委員長	実際聞きますと、不足というよりも受け入れるための環境整備ができていない
出川委員	できていないと私は思います。
神成委員	臨時に限っては、正職になるという条件がなければ、園児数が少なくなって定数定員を割れて来れば、自ずと職員を解雇しなければいけなくなってくるわけであります。臨時職員から辞めさせていくというのが当然であると思う。臨時職員で入っても果たして正職員になるのかどうかという問題、給料そのものは勿論だけれども、そういう問題があるわけで・・・
丹波委員 (代：小塚)	<p>そういう傾向が今からちょうど12、13年くらい前から、秋田の短大を出た人達が、卒業してすぐに臨時という形がすごく民間でも多くて、ほとんどの方々は辞められて、財政が一般財源になってから経営していくためにきついたために、辞めていただくか臨時の形で5、6年勤めて東京の方に行ってしまうという傾向が多かったのです。</p> <p>それでも、北秋田市のわんぱあくができたときに、子育てがしやすい環境だということで産みたいということで、平成13年頃にちょっと子どもが多く生まれた時期があったのです。保育園プラス周囲の社会環境的な所の子育てを応援するシステムを少し濃くしていけば、もしかすれば在宅の子どもなども応援したり、そして今、24時間勤務の方々、ヘルパーさん、看護師さん、コンビニなどで働いている方たちが増えてきておりますが、保育園に預けていても日曜日とか土曜日の遅い時間とかに見てもらえる所がないということで、わんぱあくができた時にものすごく喜ばれましたが、もしかしてそういう体制づくりができれば、また一つの改善策として北秋</p>

	田市にあともう 1, 2 か所の小さな拠点でもあればいいのかなあという感じもします。特に子どもに限らず、おばあちゃんでも学童でも合わせたような拠点が広い北秋田市なので何か所かあれば、少しは子育て応援になるのではないかなとこのアンケートを読ませていただき、感じました。
委員長	保護者の方々、こういう現状を分かっておられましたか。何か感想でも。
佐々木委員	根本的なことですが、非常勤の先生は、資格は持っていらっしゃるのですか。その上で採用されて「非常勤」なののでしょうか。
下山委員	はい。
佐々木委員	はい、わかりました。
金澤委員	アンケートのことについて聞いたかったのですが、平成 21 年のものでかれこれ 3 年も経っておりますよね、毎回保護者会などで出席するところいうアンケートが示されておりますが、このアンケートの結果こうなりましたというものが市の方から示されないの、市の方からこういう対策をしましたという報告がいただければ、父兄の方からも市ではこういうことをしているのだなという方向性が見えるのだと思います。
事務局	<p>アンケートでは、たくさんの要望をいただきます。例えば、「子育てにおける情報が足りない」という声がありました。転入してきても、どこに保育園や病院があるのかという情報がないという声がありましたので、手元にお配りしております「保育園のしおり」「すくすくきたあきた」という冊子を作りました。</p> <p>特に「すくすくきたあきた」の方は、子育て、保育園、小学校などの情報が網羅されていると思っております。必要に応じて配布はしておりますが、もしかするとご覧にならなかった方もいらっしゃるかもしれない。そういう形で少しの努力はしたつもりではあります。それに今、ホームページでもっと情報発信をしようということで、修正中です。これはどこの市町村でもやっていることですが、情報が古かったり、更新されないとか偽りの情報があったりもしますので、それについては随時対応していきたいと思っております。</p> <p>「遊び場所がない」という意見もありました。残念ながらこれは「はいそうですか。じゃあ明日」というわけにはいかないものですから、重く受け止めて市全体としてできるか、できないか、引き続き検討するということになります。</p> <p>もし、今アンケートを取ったとすれば、同じような意見が出るかもしれませんが、必要に応じてまた実施したいと考えております。</p>
委員長	今議事の 1) 北秋田市の保育園等の現状と課題について説明を受けて、皆さんからご意見を伺いましたけれども、先ほども申しましたがこういう

	現状と課題が、今後も議論に大きく関係してくると思いますので、しっかりと捉えて今後も取り組んでいただきたいと思いますと思っています。
近藤委員	子どもの遊び場所がないということですが、どこに行っても遊ぶ場所が閉鎖しております。遊ぶ人がいないのです。だからそういう要望を出しているのは、街中ではないかなあと思っています。地域では、ほとんどの児童公園がブランコでも滑り台でもみんな閉鎖しております。遊ぶ子どもがいないのです。だいたいこういう要望がなぜ出てくるのか、ちょっと分からないです。皆さん歩いてみればわかると思いますが、ほとんどの遊ぶ場所が遊休施設になっております。使っていないです。こういう結果がどこから出てくるのかなあと思うのですが。
田口委員	先ほど雇用が不安定ということがあったのですが、実習に来た学生さんとかのお話を聞くと、まだ若いので賃金とかというよりも、非常勤だと保育園側としては、年長さんとか責任のある場所や担任を持たれない、常に補助ということで、自分はせっかく短大を終えてきて、「さあ、こういうのでやるぞ」と意気込んできても、補助とか0歳児とかしかできないということで、自分はこういうところにいるよりも他でもっと自分の力が発揮できるかなあという人もいるわけであります。雇用の不安とか賃金の云々よりも自分がもっと子どものために頑張りたいという保育士さん、学生さんがいるということも忘れてはならないのではと思い、正職の方を頑張ってもらいたいと思います。
委員長	<p>今、私ども（秋田県民生協会）も年間何人、何十人と採用するわけですが、採用する場合に、正職員と準職員とするわけですが、経営者としては、全員正職員にしたいという思いはありますが、経営上の問題でそういうわけにはいかないというのが現状で、恐らく皆さんどこもそうだろうと思います。</p> <p>ただ、この地域ではないですが、全員正職員にするとすれば、その待遇は我々から見れば非常に少ない、それでも「正職員」だからということで非常に応募がくる。私どもの臨時職員よりも待遇が低いけれども、それでも世間的に正職員という名前の聞こえ方がいいという捉え方をしているようです。行政の正職員と臨時職員と違って、民間ではそういう手法を使ったりする場合がある。福祉業界では、非常に低賃金でありながら正職員でいる場合もございますので、必ずしもお金の面ばかりではないわけです。</p>
出川委員	そうできれば、私達もあまり肩がこらないわけですがけれども。現状を考えると、この会議の初めから中心的な課題になっている訳ですが、子どもがどんどん減っていき、非常勤職員の応募が少なくなっているという状況の中で、正職員という扱いができるかどうかということですね。これはな

	<p>なかなか難しいというよりも不可能だということが言えるのではないか。それから正職員を首切るということはできないわけではないのですが、やはり非常勤ということで何か月間かお手伝いいただくと、あるいは雇用させていただくという条件がついての非常勤なのですよね。これからずっと何年も何十年も職員として雇用するのではなくて、現状のほとんどは6ヶ月とか、長くて1年とかの条件付きの採用になっているわけです。そうでない限り、職員を子どもの数が増えたからと増やすわけにいかないですし、簡単に首切るわけにもいかないです。だからこれはやむを得ない問題だと、ただし、全てが非常勤だということが妥当なのかという、これは、考えざるを得ない。今の北秋田市の保育所の保育士の割合の6:4ですか、7:3ですか、非常勤が大半を占めているというのは、はっきり言えば、本来あるべき姿ではない。だから、その辺りを今後どうするかというのが大きな課題であると。本日、子どもの数が減っている、そして、保育室のスペースの問題、それから子どもの数に合わせた職員定数が話題になったわけですが、第3回目の保育士の確保、民営化、指定管理、統廃合、これと大きく連動される問題だと思います。従って今現在ある保育所の数、子どもの数の現状からいけば、その中で働く保育士をどうすればいいかということとはなかなか難しい問題になるわけで、3回目のところで、かなり知恵を出さなければ、この問題は解決しないのではないか。民営化と併せて、子どもの保育室の性質をどうするのか、保育士の数をどうするのか、非常勤をそれにどういう風に加えていくのか、大きく連動する問題だろうと思います。そういう意味で、私が最初に申し上げたように、第3回目が大きな問題になると思います。ただ、情報交換の場ではないのですが、ここをクリアしていくために、統廃合だとか保育所の数をどうするとか、私たちは経験がないわけですから、先進地の研修とか、そういうものは今後考えられるのかどうか。これも十分に考えていかなければならないのではないか。</p> <p>体験がないだけに、先進地も県内ではたくさんあるわけですから、そういう場所をお訪ねして、先進地ではどういう風にこのような問題をクリアしていったのか勉強しながら、この提言に盛り込むことができれば、かなり生きた提言になってくるのではとも思います。</p>
委員長	<p>時間も1時間半を過ぎましたがけれども、いろいろなご意見を伺いました。その中で、先進地の視察という話も出ましたが、今後の課題として事務局と話をしてみたいと思います。</p>
2) 子育て環境に対する要望等（アンケート結果）について	
事務局	<p>今後、何回か出てくる内容で、子育て環境に対する整備を含んでいくものと思います。1 ページ目の保育園と子育て環境の現状と課題の中で、先</p>

	<p>ほど説明申し上げていない部分があります。例えば、保育園の老朽化、通園バスの老朽化の問題など。アンケートの結果は各自ご覧いただくとして、子育てに関する不満や要望などは、今後の話題の中で取り上げられていくと思います。この部分について、今回は説明を省きたいと思います。</p>
--	--

3) その他

委員長	<p>質問ですが、市役所の方々が「プロジェクトチーム」として、座っておられますが、この方々と私達はどういう関係になるのでしょうか。</p>
三上委員	<p>大まかなイメージで申し上げますと、この検討委員会で提供する資料について、内部で検討してご提供する。皆様方がお出ししたご提案についても、プロジェクトチームを介してどのようなものができるか、やり取りをする体制で、あくまでも皆様方とプロジェクトチームが検討委員会の中で直接やり取りをするのではなくて、皆さま方から何か質問があったら、お答えをするという形で、市の方から提案をするという形ではないということです。総務部もおりますし、お金をしっかり握っている財務部も、管理する会計管理者もおり、それに関係する部署の責任者がおりますので、プロジェクトチームとしてしっかり対応できると考えております。</p>
委員長	<p>全体的に、今日の中で何かありましたら、お願いします。</p>
委員	<p>《なし》</p>
委員長	<p>時間が若干過ぎましたが、時間にあまりとらわれるわけではありませんが、人間の思考力というものは、あまり長くなりますと様になりますよね。この辺で終わりたいと思いますが、特にご発言があるという方がおりましたら、ご発言願いたいと思いますが。</p> <p>なければ、今日は第1回目でもありますので、大きな課題も出て参りましたので、それに基づいて今後2回、3回…と回を重ねて参りますけれども、あまりそれにこだわらないで、ご発言いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>今日はどうもありがとうございました。これで終わりたいと思います。</p>
事務局	<p>今後の会議のスケジュールについて、次回は11月30日ということになっております。先ほどご意見がございましたように、会議日程に合わせて事前に資料をお渡しできるように事務局で準備したいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>